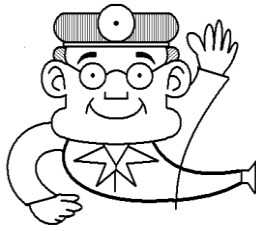


第176回 “いのち” を考える会 報告



—聴覚障害者の医療を考える会—

2019年7月25日(木) 18時30分～20時30分

あすてっぷ KOBE セミナー室3

参加者42名(うち聴覚障害者12名)

テーマ：「麻疹・風疹」

～かかったことがあるから大丈夫。それ、ホント?～

講師：鷺尾 隆太 先生 (わしおこども医院 / 神戸市中央区)



鷺尾先生のお父様がろう者であり、ろう者への理解がみられる講演でした。
手話をつけて自己紹介され、そして、子どものいるろう者が病院を探していたら、是非ご紹介くださいとのことです！
近年流行している麻疹と風疹について、是非正しい情報をつかんでください。

麻疹 (はしか)

●麻疹はなぜ危険？

- ・感染力が非常に強く、抗体がない人では90%発症する
(空気感染 ⇒ 1人の患者がいれば15人に感染する)
- ・有効な治療法がない
- ・感染者の約30%が合併症(中耳炎、肺炎、脳炎など)を起こし、死に至る場合もある
※合併症の危険が高い
 - ・妊婦(妊娠中に麻疹にかかると、流産する可能性がある)
 - ・小児、高齢者
- ・世界で年間約50万人が死亡し、医療が発達している国でも1000人に1人が死亡する

●麻疹の症状 以下の①～④の経過をたどる

①潜伏期：感染後10～12日間。その後、麻疹の症状が現れる

②カタル期：症状が現れて3～4日 ←この時、感染力が強い！！

- ・38度前後の発熱・咳・鼻水・倦怠感など、風邪のような症状
- ・白目部分の充血、目やになどの結膜炎症状
- ・乳児や幼児の場合は、下痢や腹痛を起こすことがある
- ・口の中は、粘膜全体の赤み、頬の粘膜に小さな白い斑点(コプリック斑)

※コプリック斑は麻疹に特徴的な症状なので、早期発見に役立つ。カタル期を過ぎると数日で消失



③発疹期：4～5日

- ・発熱は一時的に1度ほど下がるが、12時間ほどで再び上昇して39.5度以上になる
- ・麻疹に特徴的な赤く小さい発疹が現れる。発疹は、まず耳の後ろや首、顔などに現れ、やがて手足の先まで全身に広がる。この間、高熱が続く。

④回復期：3～4日

熱が下がり、全身状態も回復。発疹は黒みがかかった色素沈着となり、3ヶ月ほど残る。
※熱が下がって3日間経過すれば、登校可能

●麻疹にかかったかも？と思ったら・・・

- ・麻疹にかかっている人と接触して5～21日の期間は発熱やカタル症状（咳、鼻水、目やに）に注意し、朝夕に体温を測る。
- ・発熱がある場合は人が集まる場所に行くことを避け、**医療機関には予め電話をして受診の仕方の指示をあおいでから受診する。**（隔離する必要があるため）

風疹（3日はしか）

- ・飛沫感染 ⇒ 1人の患者がいれば5人に感染するくらいの感染力
- ・合併症として、関節炎、脳炎・脳症、血小板減少性紫斑病
- ・妊婦（妊娠20週まで）に感染すると、胎児に合併症をおこす

※先天性風疹症候群

風疹ウイルスが胎児に感染し、難聴、心疾患、白内障、発達障害などを引き起こす

●風疹の症状

①潜伏期：感染後14～21日間。その後、風疹の症状が現れる

②初期症状

倦怠感や微熱、首のリンパ節の腫れなどが現れる。**特に耳の後ろや後頭部の腫れ**は風疹に特徴的。リンパ節の腫れが治まるには数週間かかる。

③発疹症状

- ・初期症状が現れて3～7日後に発疹がみられ、発疹は顔から全身へと広がる。
- ・発熱は3日間ほど、微熱でとどまることもある
- ・発疹は数日ほどでおさまり、跡が残ることはほとんどない。発疹が現れる数日前から出現後1週間は感染力が強い。

●麻疹や風疹の感染を防ぐには？他の人に移さないようにするには？

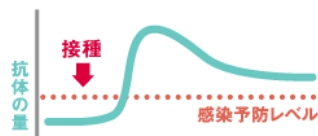
- ・現在の感染者の多くは、20代、30代、40代のワクチン接種をしていない世代
- ・年代によって、ワクチン接種を受けていない人、1度しか受けていない人など様々なので、各自ワクチン接種しているかどうかを確認
- ・ワクチン接種を受けていても、抗体が減ってしまっていることもあるので、抗体を持っているかどうかの検査をする

風疹ワクチンの定期予防接種と年齢の関係

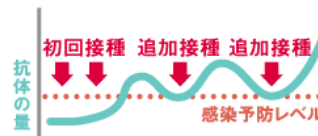


風疹ワクチンの予防接種の状況*国立感染症研究所 感染症疫学センター「首都圏における風疹急増に関する緊急情報:2019年6月12日現在」を基に作成

●ワクチンの種類



一度接種している人でも抗体は減っているため、ワクチン接種して抗体を増やす必要あり
妊婦には接種できない



●風疹ワクチンは助成があります

- 対象者：昭和37年（1962年）4月2日～昭和53年（1978年）4月1日生まれの男性
- お住まいの自治体から、原則無料で風疹の抗体検査とワクチン接種を受けられるクーポン券が送られているので確認を

麻疹・風疹の予防のためには、抗体が低下した成人が予防のワクチン接種をする必要があります。
これから生まれてくる世代の子どもを守るために！！



●講演後の質疑応答より (ろう者の質問)

- Q. 妊娠中に風疹にかかると、その子どもは障害をもつというがどの程度の障害？
- A. 子どもの障害の程度は様々であり、難聴・心臓疾患・白内障などのすべての症状を併せ持つということではない。
- Q. 私は65歳以上なのでワクチン接種をしていない。高齢者にも麻疹は感染するのか？
- A. 60代でも感染し発症する。幼児期に感染して抗体を持っている可能性もあるが、ワクチン接種してもよいだろう。
- Q. 家の中をきれいにしていたら、麻疹の感染は防げるのか？
- A. 麻疹は空気感染なので、そういうことは関係ない。

(健聴者の質問)

- Q. 麻疹と風疹のワクチンは妊婦も接種できるのか？
- A. 生ワクチン（ウイルスを弱くしたもの）なので、妊婦は接種できない。
- Q. ワクチン接種していても抗体が減っていくのは、どのウイルスの抗体でも起こること？
- A. その通り。抗体が残っていたとしても、感染を防げる程度の量が残っているかはわからないので、抗体検査を受けることをお勧めする。

